

## 高等学校福祉教育の現状と課題

○ 田中泰恵

私立 東奥学園高

**目的** 高等学校で福祉教育が専門的に行われ始めたのは昭和61年からとまだ日が浅い。方、高齢化社会を反映して、福祉マンパワーの養成は国としての課題となっている。平成15年度から社会の変化や産業の動向に適切に対応した教科として、教科「福祉」が新設されることになった。高等学校福祉教育の現状について家庭科の立場から検証。

**方法** 全国高等学校校長協会家庭部会福祉科校長協会のアンケート調査等から分析。

### 結果

- ①福祉系の学科を置く高等学校数は現在356校。このうち公立265校、私立91校。家政科の活性化、生き残り策、高齢化社会へ向けてのニーズなどで平成6年度より急速に増加した。
- ②福祉科目担当教員の免許の種類と人数は、家庭371人看護456人地歴公民85人など。家庭科教員の担当教科は社会福祉実習、老人介護、社会福祉演習、社会福祉援助技術、社会福祉制度など多岐にわたる福祉専門科目である。
- ③平成15年度学習指導要領の改定に伴う措置  
現任教員の認定講習が平成12年度より14年度まで実施。受講可能免許は家庭、看護、公民の3つ。その他の免許所持者は資格検定試験を受験。
- ④介護福祉士国家試験受験校は109校、ホームヘルパー資格取得校209校。  
介護福祉士国家試験合格状況は50%前後

**考察** 福祉教育は、体験学習を通して人間的成長を図る点では、家庭科と共通する。生活主体者である「人」を総合的に科学する視点を持つ、家政学の果たす役割は大きい。介護、看護、福祉などに精通した、ヒューマンな視点を持つ人材養成が急がれる。